

事例

オリジナルの野外劇と酪農体験で食と命の大切さを伝える (第6回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞)

株式会社須藤牧場^{すどう} (千葉県)

株式会社須藤牧場(以下「牧場」という。)では、酪農教育ファーム¹の活動として酪農体験の受入れや、牧場の中にある野外劇場での演劇の上演等による食育活動を行っています。

野外劇場では、酪農家が自身の経験を踏まえて作成した脚本による劇が上演されており、全国からの来場があります。劇の上演は平成26(2014)年に開始し、当初は酪農家と牛のみの出演でしたが、現在では地域の子供や大人等のボランティアも出演しています。牛の一生や牛の品種の違い等を劇の題材とするほか、停電時に搾乳ができず苦しむ酪農家や、近隣の酪農家の仲間がそれを助けながら生産物を食卓へ届けようとする様子等、食



劇の役者(ボランティア)の酪農体験

べ物が食卓へ届くまでを生産者の苦悩と併せて劇で表現しています。劇の出演者は農林漁業者等のリアルな姿を演じ、観客が「命と食」について考えることができる内容となっており、歌やダンスを併せて取り入れた芸術的な演出により、人々の心に強く残るような工夫もされています。また、上演後には、酪農体験を実施したり、参加者からの「観劇後に観客に牛乳を配布したらよいのではないか。」といった声を受けて牛乳を提供したりするようになりました。参加者からは、「非日常空間での熱い心に届いた芝居だった。」、「動物の大切さを知った。」、「普段、何気なく食べている物の背景をよく知ることができた。」等の声が寄せられました。新型コロナウイルス感染症の影響により酪農体験の受入れができない中でも、車の中から見られる野外劇を上演することで食育に関する情報発信を続けてきました。

劇に参加する地域住民のボランティアは年々増えており、今後はより多くの人数で上演することを目指しています。ボランティアには月1回程度、酪農を体験してもらうことで食育に関する知識等の向上を図っています。食育を自ら発信していく人数を増やすことにより、地域住民の生きがいの創出につなげ、継続的な取組としていきます。

今後も生産現場の特色を生かしながら、食への関心が薄い人々の心に残るような食育活動を進めていきます。



野外劇場の様子

1 「食やしごと、いのちの学び」をテーマに、主に学校や教育現場等と連携して行う、酪農に係る作業等を通じた教育活動を行う牧場等のこと

一般社団法人中央酪農会議ウェブサイト参照：<https://www.dairy.co.jp/edf/gaiyo.html>